

2011
10月25日
(年7回25日発行)
第419号

緑化樹木
の情報紙



昭和54年12月7日第三種郵便物認可

発行所

社団法人 日本植木協会

〒107-0052 東京都港区赤坂6-4-22 三沖ビル3階
TEL (03)3586-7361 FAX (03)3586-7577
購読希望の方は上記宛へお申込み下さい。
年間購読料 5,000円

調査結果の概要

図-1 樹種群別の供給可能量 (単位:千本・鉢)
[平成23年度:53,191千本・鉢]

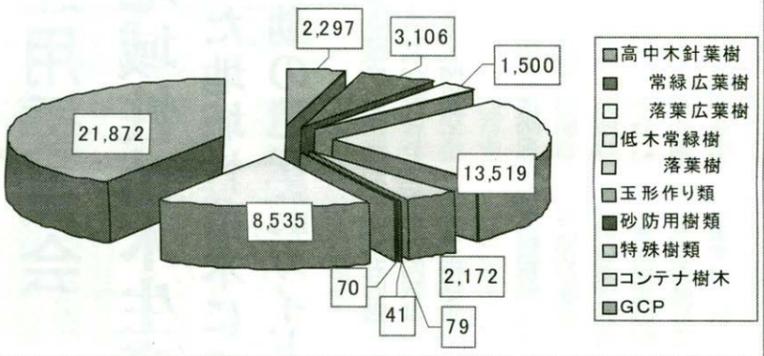
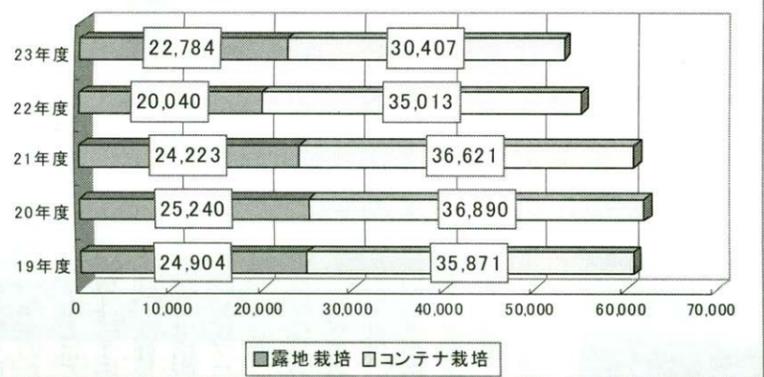


図-2 露地・コンテナ栽培の推移 (単位:千本・鉢)



社団法人 日本植木協会 平成二十三年 供給可能量 調査の結果報告

平成二十三年度の供給可能量は五、一三九万本となり、対二十二年比(五、五〇五万本)九六・六%と若干の減少となっている。ピーク時(平成六年度、一億七、八〇〇万本)からの減少傾向は依然止まらずに続いている(図-1)。樹種群別内訳は、グラウンドカバープランツ(GCP)が最も多く全体の四一・一%と四割を占め、次に低木常緑樹が四分の一の二五・四%、三番目にコンテナ樹木が二六・〇%の順となる。露地栽培物のシェアは四一・八%に対し、コンテナ栽培物のシェアは五七・二%となっている。

主要な樹種群について種類別の内訳をみると、GCPでは、タマリユウ三八〇万鉢(GCP全体の一七・四%)、シバザクラ類二二〇万鉢(同一〇・九%)、コクマザサ一四一萬鉢(同八・五%)の構成となる。低木常緑樹ではサツキ五五六万鉢(低木常緑樹全体の四一・二%)、オオムラサキツツジ一七二万鉢(同二二・六%)、ヒラドツツジ二二二万鉢(同九・〇%)が上位三樹種を構成している。コンテナ樹木は、Chamaeflora、フィリフェラ、オー

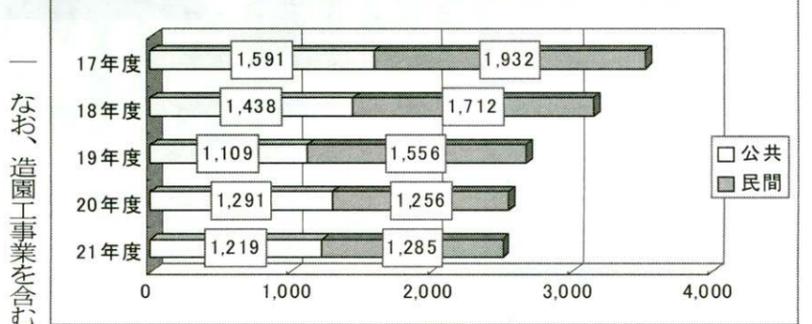
の内訳は、高中木一三三・九%、低木一〇六・五%となり、両方ともすべての樹種群で増加、コンテナ栽培物は樹木九三・一%、GCP八四・六%となっていることから、露地栽培物の増勢が全体の減少を弱めている。

需要の動向

建設工事施工統計調査(国土交通省)によると、平成二十一年度の造園工事完成工事高は四、五八八億円(前年度比二・三%)となり、平成二十二年連続して減少している。このうち、造園工事業種が元請で受注している金額は一五〇四億円(前年度比一・七%)で、元請比率は四・六%を占める。元請比率は前年度に比べ一・〇ポイント上昇となる。完成工事高は平成五年度以降でみると、平成九年度まで一兆円台、平成十三年度まで九千億円台、平成一七年度まで

七千億円台、平成十九年度まで五千億円台と推移し、平成二十年度から四千万円台へ落ち込んでいる。また、平成二十一年度の元請受注額を発注者別にみると、公共は一、二二九億円(四八・七%)、民間(五一・三%)となり、昨年度に公共側に振れたシェアが再び民間のウェイトを高める結果となる(図-3)。

図-3 発注者別元請完成工事高の推移 (単位:億円)



総合工事業八業種全体で見ると、平成二十一年度の元請比率は七五・〇%、公共と民間の比率は三三・九%・六六・一%となっている。公共工事の全体的状況を「公共工事前払金保証統計(北海道・東日本・西日本建設業保証)」によって検討する。

平成二十二年の件数は二七〇、五〇五件、前年度に比較し七・六%の減少、請負金額は一兆二、八二七億円、前年度に比べ八・八%減と低減している。請負金額は二十年度から一時的に回復したものの、平成二十一年度まで二兆円台、平成一五年度まで一五兆円台、平成一九年度以降は

ほぼ一兆円台を横這いで推移している。民間需要について、一年間に新たに造成された住宅用地の供給量を把握する住宅用地完成面積調査(国土交通省)によると、平成二十一年度の民間(一、八五六ha、七五・八%)と公共(五九一ha、二四・二%)を合わせた総数は、二、四四八haとなっている。最近一〇年間の推移をみると、平成二十二年まで五千ha台、平成一三・一七年度は三千ha台、平成一八・一九年度は二千ha台、平成二十年三千ha台へ回復したものの、再び二千ha台へ下落、この一〇年間の最低となる。平成二十一年度の工事一件当たり完成面積は、一、六二三㎡、平成一四年度以降の拡大基調を維持している。一件当たり面積は増加していることから、潜在的な植栽可能面積は確保しやすいと考えられる。

平成二十三年 植生アドバイザー 育成事業開催

本協会植生調査委員会は、八月三十一日から九月三日にかけて植生アドバイザー育成事業のセミナーを群馬県川場村で開催した。開催初日は台風12号の接近情報があり、大島から参加予定二名の方が、航路欠航によりやむを得ずキャンセルと

なったが、三九名が北は北海道/札幌、南は九州/福岡・熊本・大分から参加して催行した。初日は、全員が集合したのち、上条委員長を中心にオリエンテーション、講師代表・中村先生のセミナーの骨子、東京農大・関岡先

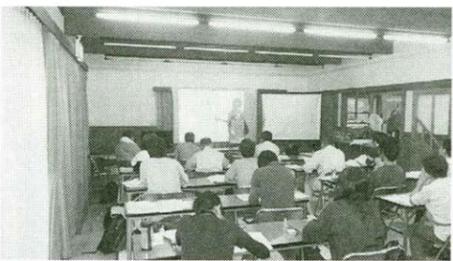
生の安全講習を聴講したのちに、各コースごとに講義場所に移動してカリキュラムに移った。講義終了後、食堂において午後七時から夕食後に参加者の自己紹介を行って、場の雰囲気緩和を促した。

前述のとおり、台風接近により、台風の状況の予想と雨量等を把握しながら、カリキュラムのやりくりをして、雨の少ない時間を縫って野外調査に出たり、講義室での座講等に変更してカリキュラムの消化をした。夕食は、恒例のバーベキューを開催し、昨年末まではスタッフが全てを対応したが、今年からは各コースごとに焼き手から配膳までをグループ

Aコース 森の村と野外実習



Aコース座講風景



最終日は、朝から台風進路、鉄道・航空等交通の状況等を細目にチェックして当初の解散時間を一時間早めることとして、全員が昼食後に食堂において上条委員長、中村先生、スタッフ等が挨拶をして宿舎バスや、また、この育成事業は環境省と農水省の「人材認定等事業」に育成事業として登録されていますが、本年十月開催の認定試験も実施して一定の条件を満たしたうえで、二十五年春以降に人材認定等事業の「認定事業」として登録申請を致しますので、併せてご期待くださるようお願いいたします。

地域性植物適用委員会

第五回勉強会 地域性苗木生産研究会

講演 「設計者から見た地域性苗木について」 解説 「広葉樹種苗移動の遺伝的ガイドライン」

七月二十日(水)十三時より都内の弘済会館にて地域性苗木生産研究会第五回勉強会が開催され、台風の影響にもかかわらず四十五名が参加した。参加者内訳は協会員二十二名、役所一名、ゼネコン他設計・施工関係が二十二名で、申込者は五十三名だった。

宍倉委員長の開会挨拶後、(株)愛植物設計事務所 山本紀久会長より「設計者から見た地域性苗木」についてご講演いただき、休憩を挟んで「広葉樹の種苗の移動

七月二十日(水)十三時より都内の弘済会館にて地域性苗木生産研究会第五回勉強会が開催され、台風の影響にもかかわらず四十五名が参加した。参加者内訳は協会員二十二名、役所一名、ゼネコン他設計・施工関係が二十二名で、申込者は五十三名だった。

生植物の移動や植栽材料の採取や繁殖のための母種の選定などはこの区分図を参考にしてください。ただ植物の種、変種レベルでの住み分けは格段に微細であり、具体プロジェクトでは、その場に応じてさらに詳細な区分けを設定する必要があります。

母樹は多いほどよい。自然の多様性は、地域の実生繁殖個体から、採取母樹は多いほどよい。植栽材料は通常、種の指定により流通しており、

一部埋め立てとサトウキビ農地等七〇ヘクタールの土地。植栽の計画・設計は、国体の会場整備植栽と樹林改良にともなうモクマオウ伐採再整備計画の二本立てで継続実施された。

で、大量の林業用苗が確保できるオーストラリア原産のモクマオウを選び、早期の幼木植栽で開催期までに二m以上の生長を見込んだ。

③自生種の苗木は、生長の速いモクマオウの樹下に植栽し、大会終了四年後に樹下の自生種を被圧しているモクマオウを伐採し、自生種の杜に切りかえる。

望ましい。採取面積としては3ha以上の範囲で行う。生物多様性は、生態系の多様性種の多様性、遺伝子の多様性の三つがある。

造園植栽における地域性苗木の扱い 「設計者からみた地域性苗木」 要旨

(株)愛植物設計事務所 山本紀久

● 植木生産者は、苗木に適した形質(樹形や花、耐病性や耐寒、耐暑性等)をそなえた個体を厳選し、挿木・接木・取木等の無性生殖で、八重咲き、枝垂性等、日本の自然界には見られない多くの品種を繁殖し、その結果、多彩な植物景観を築きこ

と特定外来生物法と旺盛な繁殖力を持つ外来種による自生種の駆逐と、交雑による自生種遺伝子の攪乱が問題とされ、二〇〇四年五月に特定外来生物法(特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律)が制定された。

いのない対処が、植物を扱う造園関係者の資質として求められる時代がきている。

ただ都市域のなかにも山的、里的な自然が必要で、それらのみどりが生態的にも景観的にも重要な意味を持つ。都市域でも具



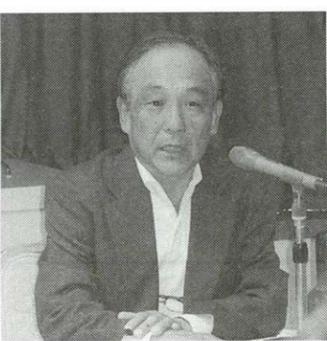
講演会会場

一般的に植栽設計で遺伝子レベルの個体の指定はされない。

同DNAを持つ現地の植栽材料を指定するのは、自然公園内の施設や道路緑化など、自然の生態系の保全を前提とする地域に植栽する場合などに限られる。

同種でも、DNAの異なる個体を持ち込むと、その土地固有のDNAを持つ個体との交雑で、厳密な意味での生態系の多

この報告書は大量植栽の林業などを意識した部分もある。「地域性苗木」に対しての基本的な考え方や「一般苗木とは違い、地域性苗木はチビもノッポもあり、寸法・形状でなく、年生を規格に」等について地域性植物適用委員会と考えることが確認出来た。



(株)愛植物設計事務所 山本紀久講師

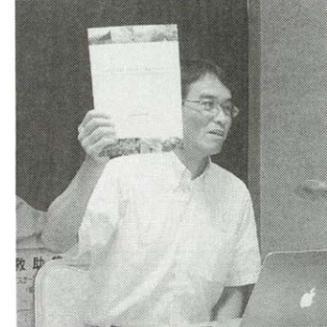
● 侵略性の強い外来種問題

モウソウチク、マダケ、トウネズミモチ、ボタノクサギ、シマトネリコ、ヒラカンサ等の繁茂についても、自身の目や地域の情報によってその侵略性を判断し、扱いについては慎重を期し間違

・ 環境省「生物多様性保全のための国土区分の試案図」は、国土の環境を島嶼や動物地理情報などを勘案した一〇区分で、自

・ 郷土種による森づくりや野生生物の生息環境の復元など、自生種や個体を特定するケースが多くなっているが、自生種も多くは移植に適さないものが多い。根茎を傷めずに移植出来るコンテナー栽培による苗木を前提とすることが要点である。

・ 地域性苗木で故郷の杜をつくる事例として、沖縄県総合運動公園の杜が紹介された。



(独)森林総合研究所 津村義彦講師

・ 苗木生産等の産業目的での植栽にあたっては、種苗流通のゾーニングの基準

・ 一つの場所で採種する場合、近縁個体を避けるため個体間の距離を三〇m以上離し、三〇個体以上から採種することが

・ 突然変異は、DNA複製の際のエラーで様々な変異が生まれ、ほとんどの変異は中立(益も害もない)であるが、ごく稀に有用な変異が生まれる。DNAには、両性遺伝する核DNAと、母性遺伝する葉緑体DNA・ミトコンドリアDNAの三つがある。

・ 郷土種による森づくりや野生生物の生息環境の復元など、自生種や個体を特定するケースが多くなっているが、自生種も多くは移植に適さないものが多い。根茎を傷めずに移植出来るコンテナー栽培による苗木を前提とすることが要点である。

・ 環境省「生物多様性保全のための国土区分の試案図」は、国土の環境を島嶼や動物地理情報などを勘案した一〇区分で、自

地域性苗木生産研究会について

「地域性苗木」とは「地域に自生する遺伝的集団や系統群を保全し、種のもつ遺伝的多様性を守ろう」という認識に基づく「種苗」のこと、また「基本的に都市緑化を除いた特定の自然公園や林野等で適用されるもの」として、これらの生態系保全に重要な役割を担っている。平成十六年に地域性植物適用委員会が設置された。情報の収集と発信を行い、地域に適合した優良な植物の生産と円滑な供給を図り、特定地域での自然環境の復元・保全の推進に寄与したいとスタートしました。

また「地域性苗木」は、樹種・採種場所・生産地等のトレーサビリティが重視されます。

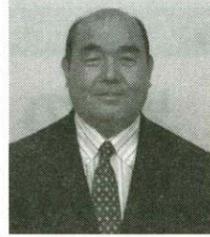
そこで協会としての生産ルールを決め、その普及を図るために「地域性苗木生産研究会」をつくり、地域の自然再生等に配慮する苗木をどのように生産し、供給していくかという課題に取り組んでいます。

会員は、現地視察研修や講演などの勉強会に参加し、研究すると共に、採種場所を明記した樹種の生産数量を報告します。昨年度調査では二社園が生産データを提供し二六〇種、約九二

想

地域性苗木生産研究会について

地域性適用植物委員長
南グリーン・シンクラ・埼玉県
宍倉 孝行



私は埼玉県川口市の戸塚安行に生まれ育ち五〇年間の地域の変化を見てまいりました。

一九五八年に東京タワーが立ち上がった時は、空も清んでいて戸塚からもよく見ることが出来ました。そんな頃には山といっても低い丘で、その雑木林は、アカシデ、エゴノキ、ヤマザクラ、モミ、ヒノキ、スギといった樹木で構成された美しい林でした。また、畑には何千種類という植物があり、三月から順々に、ハナモモ(矢口)、コブシ、ハクレン、サンシユ、ウメ、サクラの開花が始まり、十二月まで様々な植物の姿

は一千年も一万年も生きる事があります。それに対し人間は長くて二〇年といつたところでしょか。生命サイクルの短い人間が樹木と永続的に共生するには、人間(特に我々緑化業界関係者)は左記の様な事を知り、後世に伝えていく必要が在るのではないのでしょうか。

一、まずは基礎編
植物の名前を知ること、そして植生(群落・組み合わせ)を知る事が大切である。

二、生産する際にはトレーサビリティのある材料の選択が必要である。

三、導入(植栽)する際には種、苗、成木のしっかりした選抜が必要です。

四、維持・管理編
植物は生長とともに多量の土や水を必要とし、二年で三〜五倍の土や水の面積が必要となります。その為、限りある面積の中で永続的に良質な環境を得るためには、定期的なメンテナンスの良間伐、選抜というメンテナンスが必要である。

地域性苗木生産研究会では、人と植物(樹木)のバ

ランスの取れた持続可能な社会形成に必要とされる「地域性苗木」の生産・流通と更なる普及を目指し活動を行っています。登録するのに費用は発生しませんが協会の皆様に登録いただき、一人でも多くの植木業界の方に社会貢献していただきたいと思っております。

我々の行動が一助となり植物と共生できる町づくりへの意識が高まり、世代交代を重ねても、積極的に植物を知り、見て、触れて、五感で携わるといって、バランスのとれた社会が実現し、永続することを願います。

「地域性苗木生産研究会」会員募集について

地域性苗木生産研究会への入会は随時募集しておりますので、関心のある人は、HPにある入会申込用紙か、事務局にご連絡下さい。

また協会HPで下記資料が見られるように、順次作業を進めています。

1. H23年度地域性苗木生産量調査
2. 地域性苗木生産研究会会員名簿
3. 地域性苗木生産記録の取り方
4. 「地域性苗木生産履歴」ラベルと記入例
5. パンフレット：地域性植物適用委員会
6. チラシ：地球規模での「生物多様性」を守り、地域緑化の種を播く人
7. 地域性苗木植栽フローチャート

青年部会全国研修会

九月八日熱海市にて



青年部会全国研修会

青年部会は九月八日午後三時から熱海市・熱海後楽園ホテルにおいて全国研修会を開催した。

講師には(株)生活倉庫代表取締役・堀之内九一郎氏に依頼し、鹿児島県鹿屋市出身の同氏が浜松市に日常品のリサイクル店を立ち上げて全国規模で展開するまでの、まさに流転の人生について経験談をもとに九〇分間にわたって講演した。

当日は、近藤部長、海老澤担当理事を始め全国各地から九九名の部会員が集まり、年に一度の研修会に臨んだ。

今回の研修会は、三月一日の東日本大震災の被災地でもある東北ブロックを励ます意味からも、当該ブロックの部会員に積極的に参加を要請して、まだまだ落ち着いた生活の中を六名の部会員が遠路参加して、研修会終了後はお互いの無事を確認しあったりして、旧交を深めた話題の飛び交う一晩であった。

五千本の生産実績がありま

現在、研究会員は五九社園が加入しています。「地域性苗木」の生産・供給に

関心のある協会員なら随意入会を受付しています。入会時には、生産ルール資料「播種・生産記録の取り方(案)」と生産圃場に掲示する標準ラベル「地域性苗木生産履歴」サンプルを送り、

その設置をお願いしていま

多様な植物の生産・流通を担う本協会では、都市緑化用「一般緑化樹木・GCC P」だけでなく、「地域性苗木生産研究会」を中心に、生物多様性が重視される自然度の高いエリア用「地域性苗木」の生産と供給にも取り組んでいることをPRして、「地域性苗木」を流通

させたいと考えております。

二〇一〇年生物多様性条約締結国会議(COP10)を契機に、里山が大きなクローズアップされ、その里山に植栽する苗木も「その地域に自生している樹から採種され、採種場所や採種月日など履歴(トレーサビリティ)が確かな苗木が要求されることが多くなり

どの自然保護地域に限らず、里山林の森林再生にも活用できる苗木を提供して「地域性苗木」の利用拡大と普及のPRを行い積極的に使って貰えるように活動しています。

★8-9月 開催済み事業・会議等一覧★

8月	会議等 名称	場所
3日	水 【庭園樹部会】 監査・役員会	協会・会議室
9日	火 学術委員会 図書編集小委員会 新樹種ガイドブック改訂会	協会・会議室
13日	土 学術委員会 図書編集小委員会 新樹種ガイドブック改訂会	協会・会議室
17日	水 【新樹種部会】 生産数量調査小委員会	協会・会議室
18日	木 【新樹種部会】 カレンダー編集小委員会	協会・会議室
24日	水 日本列島植木植物園 委員会	協会・会議室
31日	水 植生アドバイザー育成セミナー(〜9/3)	群馬県川場村
9月		
1日	木 資格認定委員会	協会・会議室
8日	木 【青年部会】 全国研修会	熱海後楽園ホテル
13日	火 【新樹種部会】 第3回役員会・九州交流会	久留米ホテル・エスプリ
14日	水 【新樹種部会】 圃場見学会	田主丸地区周辺
15日	木 【ロジック部会】 監査・役員会	協会・会議室
16日	金 【コンテナ部会】 広報・研修委員会	協会・会議室
22日	木 【新樹種部会】 生産育成小委員会	協会・会議室
27日	火 情報検討委員会	協会・会議室
28-29日	水木 学術委員会 図書編集小委員会 新樹種ガイドブック改訂会	協会・会議室
30日	金 【新樹種部会】 研修活動小委員会	協会・会議室

★(社)日本植木協会ホームページ★

【会員限定情報】 ← 閲覧するにはパスワードが必要です。

- ・会議報告 随時更新中
- ・掲示板コーナー 疑問やご意見など、ぜひお気軽にご投稿ください。

【トピックス】

- ・(社)日本植木協会主催「品種登録勉強会」参加募集!
- ・日比谷公園に香る樹木のミニガーデン出現!是非見て香りに来てください。

New!
・IPMエッセン2012(国際花き見本市)への出展者募集
New!
・平成23年度 環境省「みどり香るまちづくり」企画コンテスト募集中!
※9/28に、メールマガジンvol.02を発行しました

10月5日(水)開催の第7回組織改革検討委員会でこれまでの検討内容を集約した「組織改革検討委員会報告」がとりまとめられましたので、次回12月25日号に掲載します。なお、ホームページの会員限定情報内でも、同内容を掲載しましたのでご覧ください。

産地と 共に...!!

緑の定期便

(三重→関東) (三重→関西)

株式会社 沖植物園

☎0593-71-0610
FAX0593-71-0611

〒519-0315 三重県鈴鹿市山本町 210-9

植木と生物多様性～みんなが元気になるまちづくり～

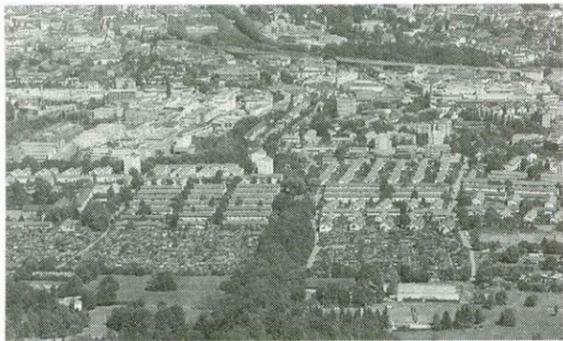
世界の事例

ビオトープを考える会会長 長谷川 明子氏



年間特集
生物多様性を考える

第5回



街路樹やお庭などによりビオトープ・ネットワークが形成されている。スイスチューリッヒの街。

一度生態系を破壊してしまっただけでなく、人々にも新鮮な食う区を与えている。

かであったら、きつとこれからの本がしようとしていることこのヒントになるはず。そんな日本二十年程先をいく国が、スイス、ドイツなどのです。

アルプスの少女ハイジに描かれる山々の中で牛が草を食む風景も、シュバルツバルトで有名なドイツの森も、一度人間が自然を破壊し作り直した風景なのです。

田も街路樹も、生き物たちが寝床や餌をとる場所として利用している重要なビオトープです。私たちが暮らす都市や村もまた、多くの生き物が生息するビオトープなのです。

最近エコラウベと呼ばれる、農業や化学肥料を使わない市民農園が盛んになってきました。その周りは高木で囲まれ、多くの野鳥の大合唱を聴くことができます。

日本でも同様の考えからビオトープをネットワークにしていくことが国の施策になっていきます。水と緑のネットワークと必要な要素です。

「流された公園」
北海道・東北ブロック長 田中 秀穂
未曽有の大震災・大津波、罹災された多くのの方々、特に福島県の会員の皆さまに心よりお見舞い申し上げます。

海水70cm冠水した土壌で除塩・水洗などなして順調な生育とつぼみがたくさん着き出したカーネーション
今、がれき処理・解体・建設業・土木関連企業はすべて賃金がはね上がり天井知らずのウハウハで

スイス最大の都市チューリッヒの真中にあるチューリッヒ湖は、一九六〇年代には、臭くても水質の悪いものでした。しかし、市民と行政が協力して良い環境を取り戻したいと大々的な活動を始めたことで、一九七〇年以降どんどんきれいになり、今では飲料に作られ、市街地内でもかつて地下に埋められたせせらぎが地上に復活して、多くの生き物たちが棲めるだけなく、市民たちの心にも潤いを与えています。

ドイツでも注目される
市民の意識の高まりにより、今まではモノトーンの色や外来種の木々が植えられていた公園も、野草が広がりに在来種の木々が枝を伸ばす心休まる公園へと変貌しています。

近年エコラウベと呼ばれる、農業や化学肥料を使わない市民農園が盛んになってきました。その周りは高木で囲まれ、多くの野鳥の大合唱を聴くことができます。

そのような訳で、私たちもこれから公園の木々だけではなく、街路樹、河畔林、住宅の樹木なども含めて、街全体のビオトープを一つのものとして繋げていきたいと思います。

生物多様性条約第10回締約国会議(COP10)をきっかけに、名古屋など市町村単位でも生物多様性戦略が策定され、ビオトープのネットワークの構想が織り込まれました。

「にげろー!!」
協力会社の作業員たちが命からがら高台へ逃げるのがやっと。
流されたトラック等と入れ違いに十数台の車が流れ無くなった。

植物のすべてが枯死した。ここを除塩なし・洗浄なし・土の入れ替えなしでダイレクトに幼苗を植え付けた結果、現在順調に生育中である。

これは塩分が入り込み酸化し腐敗していきこうとする動きの水分を、生きて蘇生していく働きに替えるDFCテクノロジーによって植物細胞の浸透圧を高め順調な生育を実現できた。

スイスのビオトープ事情

一度生態系を破壊してしまっただけでなく、人々にも新鮮な食う区を与えている。

田も街路樹も、生き物たちが寝床や餌をとる場所として利用している重要なビオトープです。

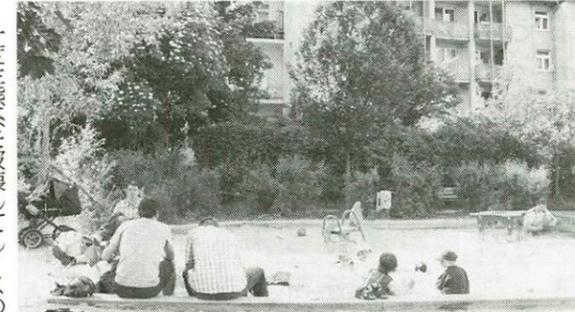
近年エコラウベと呼ばれる、農業や化学肥料を使わない市民農園が盛んになってきました。

生物多様性条約第10回締約国会議(COP10)をきっかけに、名古屋など市町村単位でも生物多様性戦略が策定され、ビオトープのネットワークの構想が織り込まれました。

「にげろー!!」
協力会社の作業員たちが命からがら高台へ逃げるのがやっと。

植物のすべてが枯死した。ここを除塩なし・洗浄なし・土の入れ替えなしでダイレクトに幼苗を植え付けた結果、現在順調に生育中である。

これは塩分が入り込み酸化し腐敗していきこうとする動きの水分を、生きて蘇生していく働きに替えるDFCテクノロジーによって植物細胞の浸透圧を高め順調な生育を実現できた。



マンションの中庭も高木のみならず中低木や草が植えられ生き物の隠れ場が増えただけでなく、人々にも新鮮な食う区を与えている。

かであったら、きつとこれからの本がしようとしていることこのヒントになるはず。

田も街路樹も、生き物たちが寝床や餌をとる場所として利用している重要なビオトープです。

近年エコラウベと呼ばれる、農業や化学肥料を使わない市民農園が盛んになってきました。



お庭も生き物の棲みかや移動時の休憩場所となる。ガーデンコンクールで受賞した庭。(ドイツ)

生物多様性条約第10回締約国会議(COP10)をきっかけに、名古屋など市町村単位でも生物多様性戦略が策定され、ビオトープのネットワークの構想が織り込まれました。

「にげろー!!」
協力会社の作業員たちが命からがら高台へ逃げるのがやっと。

植物のすべてが枯死した。ここを除塩なし・洗浄なし・土の入れ替えなしでダイレクトに幼苗を植え付けた結果、現在順調に生育中である。

地方かわら版

「流された公園」

北海道・東北ブロック長

田中 秀穂

(株)ガーデン二賀地(宮城県)

未曽有の大震災・大津波、罹災された多くのの方々、特に福島県の会員の皆さまに心よりお見舞い申し上げます。

「にげろー!!」
協力会社の作業員たちが命からがら高台へ逃げるのがやっと。

流されたトラック等と入れ違いに十数台の車が流れ無くなった。

植物のすべてが枯死した。ここを除塩なし・洗浄なし・土の入れ替えなしでダイレクトに幼苗を植え付けた結果、現在順調に生育中である。

これは塩分が入り込み酸化し腐敗していきこうとする動きの水分を、生きて蘇生していく働きに替えるDFCテクノロジーによって植物細胞の浸透圧を高め順調な生育を実現できた。

この事は全国で発生している連作障害・いやち現象の解決に直結するテクノロジーである。

全国の多くの実践事例で実証されている。疲弊した土壌であっても植物本来の免疫力を引き出させる事が出来るようになったのである。

今、がれき処理・解体・建設業・土木関連企業はすべて賃金がはね上がり天井知らずのウハウハで

目にやさしい果実 ブルーベリー
ハイブッシュ種 ラビットアイ種
大小苗木生産販売
株式会社 外塚農園
代表取締役 外塚 潔
〒315-0055 茨城県かすみがうら市稲吉南3-6-8
電話 029-831-0310(代) F A X 029-831-8711
ホームページ http://www.totsuka.be
メールアドレス info@totsuka.be

私たちはこう考える 日本植木協会と生物多様性

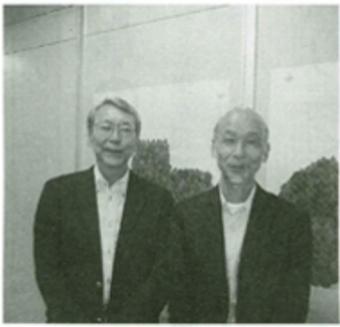
年間特集

インタビュー
シリーズ

公益財団法人森林文化協会

常務理事 須藤 久士氏

グリーン・パワー編集長 海老沢秀夫氏



写真(左)公益財団法人森林文化協会 常務理事 須藤久士氏
写真(右)グリーン・パワー編集長 海老沢秀夫氏

生物多様性にも通じる にほんの里100選の選定

森林文化協会は一九七八年、朝日新聞社が創刊一〇〇周年を記念して設立した財団法人で、今年四月一日に公益財団法人となりました。当時、「森林文化」論の提唱者である筒井道夫さん(現・東京大学名誉教授)から朝日新聞社に、「森林を研究し、発信する森林環境基地をつくる」という提議があり、それを受けて設立されたものです。私たちは、森林文化を人間が森と付き合ったための知恵の全てであると捉え、「山と木と人の共生」を基本理念とし、「森に触れる」と「森を伝える」を両輪とした活動を続けています。

被災地復興のための 方法も相談していききたい

今年には国際森林年です。国際テーマの「フォレストフォービープル」は、まさに森林文化そのものであり、今年には森林文化協会として大事な年になると思っています。た先に、東日本大震災が発生してしまいました。不幸な出来事ではありましたが、今後の復興における「森」の関わりを持ち、そこに森林文化が生まれました。しかし現在、特に都市住民にとって森は遠い存在になってしまっており、海外での熱帯林の違法伐採などもちろん、国内の森林の人手不足の問題などについても自分の暮らしに関わることも意識されず、どこか「まそ事、他人事」になってしまっています。

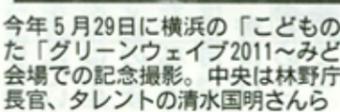
植木や苗木を通じて 都市発信型の森林文化を

私たちが、まずは震災で壊滅した海岸線に関わっていきたくて考えています。これには宮城県だけでも数百万本、一〇〇〇万本の苗木が必要となると試算されており、実際に行うことになる時には、多くの企業や団体、また市民を巻きこんだ、ある種のキャンペーンとなっていくでしょう。苗木をどこから手に入れて、誰が植えるのかというようなことも必要になってきます。その際には生物多様性の観点から地域性苗木の需要も大いにあると思います。様々な仕組みも必要と

ています。昨年のグリーンウェイでは、朝日新聞社をはじめとした多くの企業や団体との協働で、一般の参加者を募って東京湾の「海の森」に一〇〇〇本の苗木を植えました。この時、苗木調達には、日本植木協会さんにも協力いただきました。今年、横浜市の「こどもの国」に二〇〇名の親子を招待して記念植樹を行いました。植木協会さんにも相談するようになるでしょう。例えば、私たちは滋賀県高島市の「くつき森」で、地元NPOとともに里山再生に取り組み中であり、そこでは地元小学三年生に拾った木の葉から苗木を育ててもいい、それを六年生になったら植えようという活動を始めています。この活動と同じように、海岸線再生のための苗木を多くの方にあらかじめ育てておいてもらうような仕組みをつくり、その指導を日本植木協会が担うといったことも考えられるのではないかと思います。

二〇〇九年には、朝日新聞創刊一三〇周年・森林文化協会創立三〇周年事業として、「にほんの里一〇〇選」の選定を行いました。人間が自然と調和しながら暮らすことで、自然環境と人の暮らしが美しく維持されている里を選ぼうというもので、これは生物多様性の考え方にも通じます。また生物多様性という観点から、私たちはグリーンウェイにも積極的に関わっています。

かつての私たちは、森を豊かに保ち、その森のめぐみを活かすために様々な森の関わりを持ち、そこに森林文化が生まれました。しかし現在、特に都市住民にとって森は遠い存在になってしまっており、海外での熱帯林の違法伐採などもちろん、国内の森林の人手不足の問題などについても自分の暮らしに関わることも意識されず、どこか「まそ事、他人事」になってしまっています。国際森林年、世界中の人に森との関わりをあらためて見直していただき、森を身近なものとしてとらえ直し



今年5月29日に横浜の「こどもの国」で開いた「グリーンウェイ2011〜みどりの力〜」の会場での記念撮影。中央は林野庁の皆川芳明長官、タレントの清水国明さんら

各界から見た緑化業界 樹木の良好な育成を求めて!

箱根植木株式会社
第一事業部取締役事業部長

野内 英治

当社は、これまで官庁工事、民間工事を問わず受注努力をまいりました。近年、官庁関係の入札は電子入札に変わり、そのため図面の積算能力のみが重要になっております。民間工事においては、見積をすればビジネスチャンスになり、現地調査を行い施工条件等、単価に反映し、受注しております。しかし現在では見積依頼を受けても殆ど現地調査は致しません。何の意味も持たなくなりました。建設会社の窓口に向い説明をしても、最初から話にならないのが現実です。建設会社の考えや予算が大幅に違い、現場に合った、きめ細かい積算は無に等しい状態です。そして、受注に向け営業交渉を始めると競争もあり、価格を低めに申し出ても見積の半分位が受注ラインというのが現実です。その意味では営業の方法が変わり

をつくりたいと思います。都市の緑は、都市住民が暮らす中で生物多様性に触れることができる大切なものです。そのことを日本植木協会さんや会員の皆さんが意識すること、そして植木や苗木を通じて住民に普及・啓蒙していくことで、都市発信型の新たな森林文化を生みだしてもらいたいと思います。そうすればきっと、遠くの森もより身近に感じてもらうようになるでしょう。もちろん、そのためには都市計画をはじめとした様々な関係の人たちの協力が必要になってくると思います。その時に森林文化協会は、多様な関係の人たちを結びつける役割を担えるのではないかと思います。

と、遠くの森もより身近に感じてもらうようになるでしょう。もちろん、そのためには都市計画をはじめとした様々な関係の人たちの協力が必要になってくると思います。その時に森林文化協会は、多様な関係の人たちを結びつける役割を担えるのではないかと思います。今、震災地の市長、大手企業、仙台青葉ロータリークラブのメンバーらによってFFCを全面的に活用したユートピアタウンの創生構想の話合いが活発化しようとしている。今度こそ人の偉大さを実感することが出来るような気がしてならない。

当社は、これまで官庁工事、民間工事を問わず受注努力をまいりました。近年、官庁関係の入札は電子入札に変わり、そのため図面の積算能力のみが重要になっております。民間工事においては、見積をすればビジネスチャンスになり、現地調査を行い施工条件等、単価に反映し、受注しております。しかし現在では見積依頼を受けても殆ど現地調査は致しません。何の意味も持たなくなりました。建設会社の窓口に向い説明をしても、最初から話にならないのが現実です。建設会社の考えや予算が大幅に違い、現場に合った、きめ細かい積算は無に等しい状態です。そして、受注に向け営業交渉を始めると競争もあり、価格を低めに申し出ても見積の半分位が受注ラインというのが現実です。その意味では営業の方法が変わり

植木や苗木を通じて都市発信型の森林文化を。植木や苗木を通じて住民に普及・啓蒙していくことで、都市発信型の新たな森林文化を生みだしてもらいたいと思います。そうすればきっと、遠くの森もより身近に感じてもらうようになるでしょう。もちろん、そのためには都市計画をはじめとした様々な関係の人たちの協力が必要になってくると思います。その時に森林文化協会は、多様な関係の人たちを結びつける役割を担えるのではないかと思います。今、震災地の市長、大手企業、仙台青葉ロータリークラブのメンバーらによってFFCを全面的に活用したユートピアタウンの創生構想の話合いが活発化しようとしている。今度こそ人の偉大さを実感することが出来るような気がしてならない。

御礼
日本植木協会また全国の協会員の皆様には、多大なるご支援として義援金をいただきありがとうございました。3・11未曾有の大震災は、福島県の太平洋沿岸部に大変大きな傷痕を残しました。多くの人が津波に飲み込まれ命を落としましたが、福島支部会員またその家族を含め一人の犠牲者も出なかったのがとても不幸中の幸いです。支部会員一社が社屋と自宅を津波に押し流されました。そして東京電力福島原子力発電所の水蒸気爆発に、右往左往と逃げ惑い二重にも三重にも災害にみまわれ、現在では原発より半径20キロ圏内の四社が避難所の一部の会員が避難先の仮営業再開と通常の営業でない大変不便をしいられています。半径30キロ圏内の放射能汚染の少ない地域では、民間や市町村でも少しずつではありますが除染作業が行われています。そして原発の作業ステップの前倒しにより原発の冷温停止状態が見えて来たので、行政も除染に加速をさせると思われます。現在の福島県は社会から敬遠され仕事のボリュームは極端に少なく協会員各社園の萎縮が懸念されます。福島支部会員として協会未加入の生産農家は、全国の皆様の商取引という援助無くしては復興しません、全国の皆様の以前と変わらぬ愛顧を戴きたん、また以前にも増した声援の電話や商品問い合わせをお願いしたいと思います。声を聞くことで大きな励みになる事でしょう。お願い事も含みましたが、震災から半年という節目でもあり植木協会の皆様に御礼を申し上げます。福島支部会員は大地に根を降ろしシッカリと復興して行きたいと思っております。応援ありがとうございます。福島支部 安瀬信一



植栽不適地の計画 最終、観葉鉢物及び景石で化粧されている。

